

臨床実習前の医学生の地域医療実習の意義

～三施設を見学して得た学びから～

平 ころろ¹, 才津 旭弘², 菅野 武²

1)自治医科大学医学部三年 2) 自治医科大学医学教育センター医療人キャリア教育開発部門



背景・目的

私は医学部の2年次までに、3つの地域医療振興協会の関連施設での短期間の病院実習を行った。実習施設は右の地図上に記載の施設である。

地域医療振興協会の関連施設での体験と学びを通して、**低学年での地域医療実習での意義**を考察していく。



1.青森県東通
地域医療センター

2.岐阜県揖斐郡北西部
地域医療センター

3.奈良県都祁診療所



1.東通地域医療センター

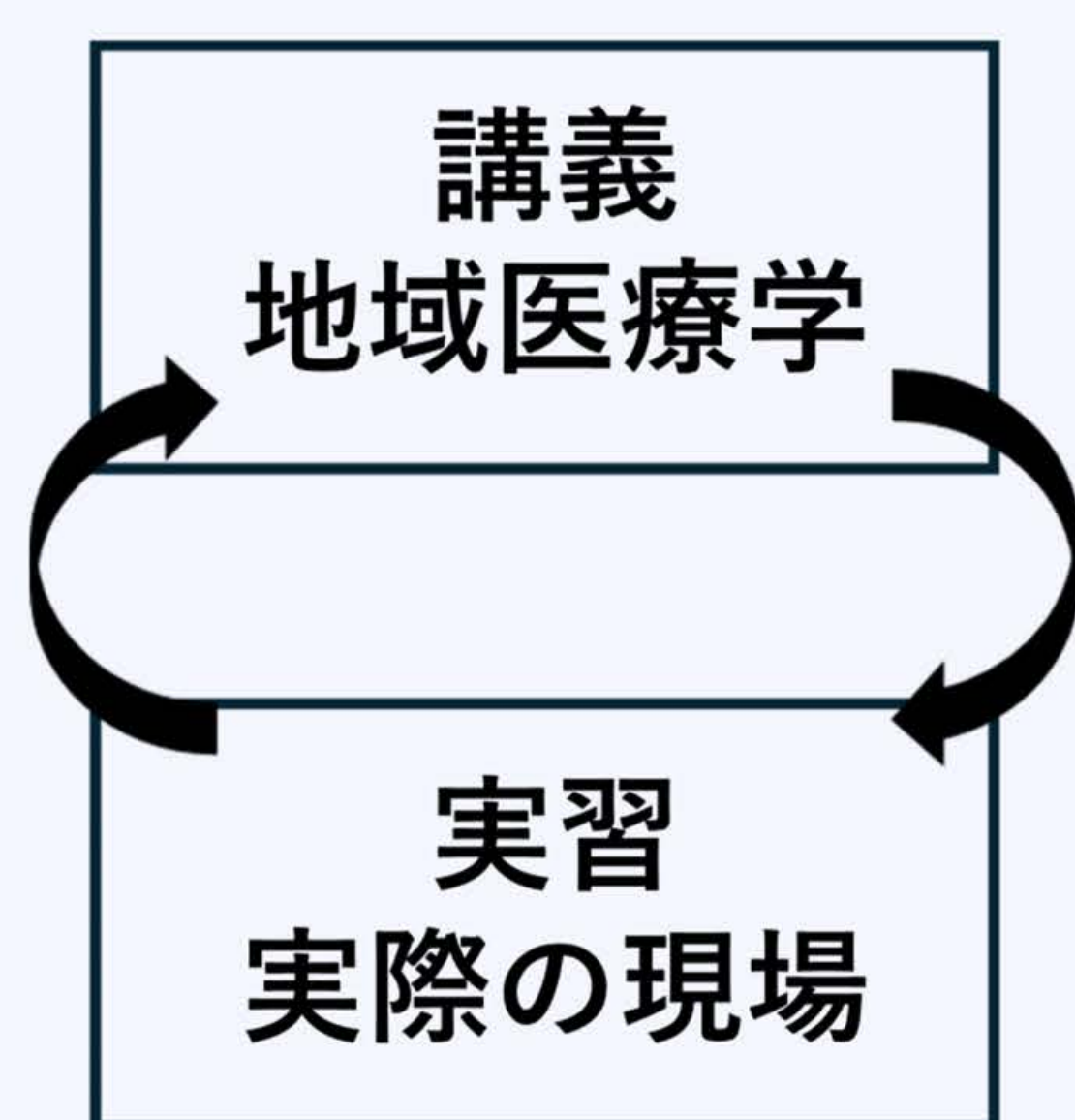
期間：2022年12月



施設で得た学び

☞地域医療学という学問の重要性
地域の産業医の役割

地域医療の奥深さを知る



講義と実習を行き来することで、より深い理解を得られる

2.揖斐郡北西部医療センター

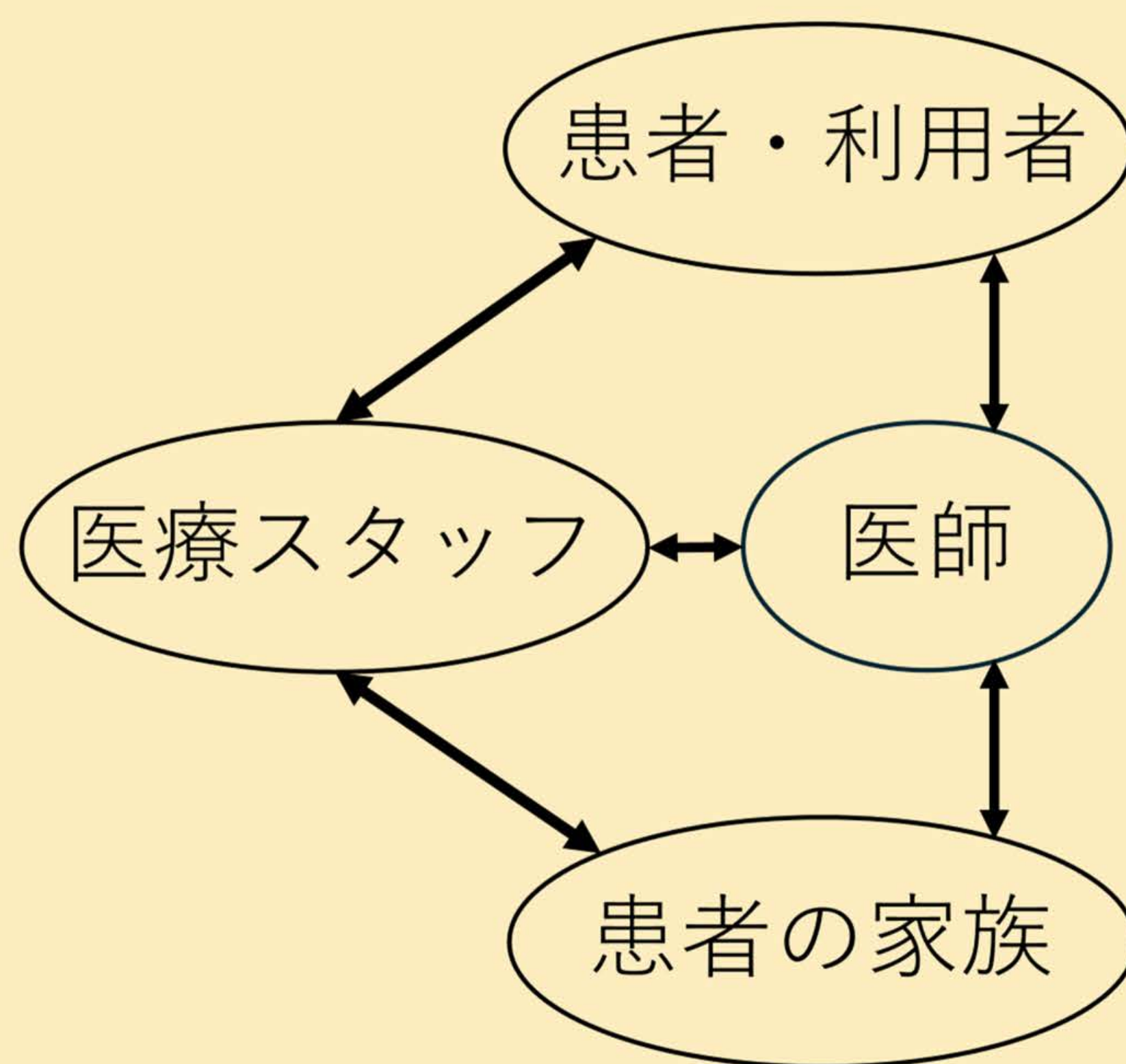
期間：2023年12月



施設で得た学び

☞多職種連携会議・デイケア会議

地域医療に求められる
コミュニケーション能力



3.都祁診療所

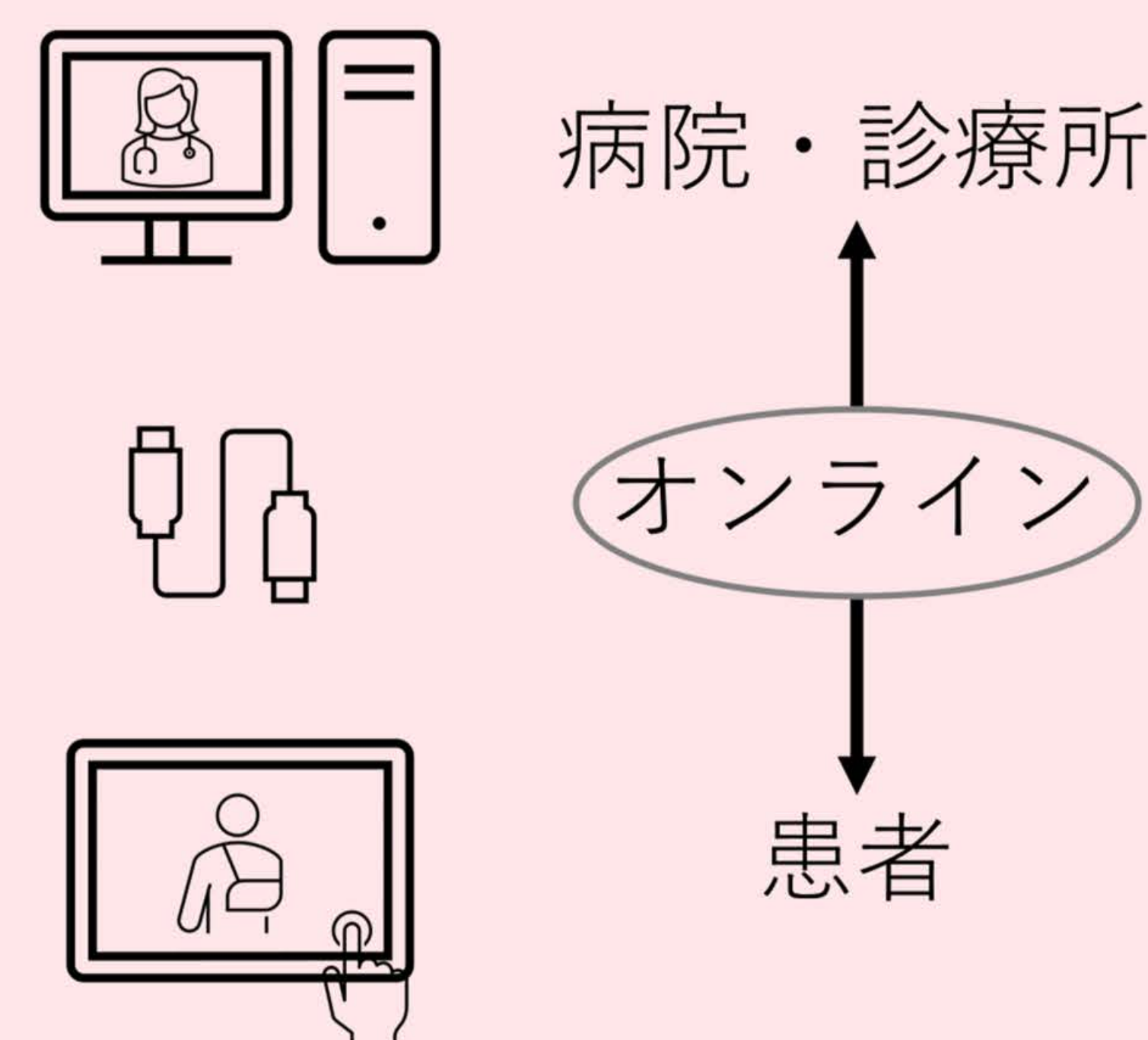
期間：2024年3月



施設で得た学び

☞ICTを活用した診療
例)オンライン診療、翻訳機器

地域のニーズに応じた
診療形態の工夫



考察

全国各地に展開する協会施設での地域医療実習では、医学的な知識やスキルを目的とした実習だけでなく、**それぞれの地域に求められる医療や福祉に関連して学ぶ**ことができる。低学年の医学生が地域での現場で実習することで、**地域医療の多彩性を知る**ことができ、**地域医療に対する考え方を豊かにできる**。



まとめ

低学年の医学生が早期に地域医療実習を行うことで、地域医療の文脈や多様性を学ぶ可能性がある。

利益相反

自治医科大学医学教育センター医療人キャリア教育開発部門は地域医療振興協会の寄付講座です。